

第 16 回例会報告要旨

Y Brasluniau o'r Papurau, y Un ar Bymtheg,

Tachwedd yr dau ar bymtheg, 2012

Prifysgol Daito Bunka, Tokyo, Siapan

第 1 部： 個別報告 Rhan 1: Papur

カムリ語の正書法 —John Morris-Jones の功績—

小池 剛史

The Welsh Orthography – What John Morris-Jones has achieved

Takeshi Koike

The purpose of the present paper is to elucidate the nature of the Welsh Orthography, by investigating the report written up by John Morris-Jones and his study group in 1928, *Orgraff yr iaith Gymraeg*. The authors of *Orgraff* endeavored to sort out the confusion in the Welsh spelling caused by William Owen Pughe's Dictionary, based on his own dubious etymology. The principle of the Orthography set out in *Orgraff* is that the spellings should represent the sounds of the Welsh of the Bible translated by William Morgan (1588), which had already provided a model of the exalted and majestic literary Welsh. The spelling system followed that of the Bible, with some minor reforms, such as omission of the unnecessary doubling of consonants. As a result, the Welsh Orthography provides for a continuity of the written language over the five centuries from Morgan's Bible to the present time.

Welsh orthography John Morris-Jones

カムリ語（ウェールズ語）には完全に標準化・成文化された正書法があり、個々の単語の正式な綴りが確定している。カムリ語正書法は大筋においてウィリアム・モルガン（William Morgan）訳聖書（1588年）で使用されているものに準拠し、それにいくつかの微調整を加え、1928年発行の報告書『カムリ語正書法』（以下『正書法』）（*Orgraff yr Iaith Gymraeg*）によって成文化された。この報告書を執筆したのが、モリス・ジョーンズ（John Morris-Jones）を筆頭とするカムリ大学ケルト研究委員会（Bwrdd Gwybodau Celtaidd Prifysgol Cymru）である。この報告書の中に、現代カムリ語正書法の基本的な考え方が纏められている。本発表の目的は、『正書法』を読み解き、Morris-Jonesらがカ

ムリ語正書法成文化に当たって意図していたことを明らかにすることである。

『正書法』序文は次のように始まっている；「話し言葉の素材を音声とすれば、書き言葉の素材は音声を表すための、目に見える文字である。従って、正書法が直面する問題は大きく二つに分かれる：（１）どのような発音が標準的であると考えられているかを決め、さらに（２）それらを表すために最適な文字を選ぶこと、である」（*Orgraff* 「序文」 i）。ここから分かることは、カムリ語正書法が「音韻的綴り字」（*phonemic spelling*）を旨としており、「文字」（*p, t, c* のように一字のもの、*dd, ch, ll* のように重ね字のものも含む）が、カムリ語の中で識別すべき音、つまり音素（*phoneme*）と対応している、ということである。注目すべきは、文字が表すべき発音が、カムリ語の「標準的発音」である、という点である。

「序文」によれば、標準的発音とは、中世の詩人ら（中期カムリ語期初期（12世紀～13世紀中頃）の詩作伝統の中で発達した、どの地域でも共通に用いられる文章語の発音であった。その発音を表すための文字は未だ体系化しておらず、一つの文字が二つ以上の音を表すことも多かった。中期カムリ語期後期（13世紀中頃～14世紀）及び近代カムリ語期初期（14世紀～15世紀）を通じて厳格な韻律規則が確立するに伴い、音と文字の正確な一致が求められるようになる。その結果、個々の音を表すための文字体系を作るための様々な試みがなされるが、モルガン訳聖書（1588年）において、文字と発音（音素）の間にほぼ完全な形での一対一対応が見られる文字体系が成立する。この聖書訳の文字体系が表すのは中期カムリ語の文章語発音であるから、16世紀に聖書が朗読された際、聴衆が耳にするカムリ語は、当時の話し言葉からはかけ離れたものであった。しかし、聖書朗読を毎週教会で耳にすることで、格調高い荘重な文章語発音が人々の耳に刷り込まれる。聖書を通じて伝えられたこの文章語発音こそ、『正書法』の中で、カムリ語の綴りが表すべきとした標準的発音であった。

「序文」に挙げられた第二の問題、即ち、その標準的発音をどのように表すのか、という問題に移る。モルガン聖書以降、聖書の中で用いられた綴りが主流をなすようになっていた。ところが19世紀に入り、ピュー（*William Owen Pughe*）が独自の語源学に基づく正書法を綴りに反映させたカムリ語辞書（*A Dictionary of the Welsh Language*, 1832年）を出版する。『正書法』序文に引用されているピューの正書法の考え方は、「単語の綴りが本来の構成要素をはっきり示すことで、その言葉は美しくなる」「語源を隠すことなく綴ってこそ、正しい綴りと言えるのである」（*Orgraff* 「序文」 iv）というものであった。この考え方を示す例として、*pen*「頭」の複数形の綴り字（現代カムリ語では *pennau*）がある。ピュー及びピューの信奉者たち（「新学派」）は単純に *pen* に複数形語

尾-au が付加されているのだから penau と綴った。中期カムリ語以来、モルガン訳聖書でも採用されている綴り（「旧学派」の綴り）は pennau である。このように綴り方の方針が「新学派」と「旧学派」に分かれ、出版物により語の綴り方が異なるという事態になったのである。

19世紀中頃よりフリース（John Rhys）やモリス・ジョーンズを始めとする言語学者らにより比較歴史言語学に基づく科学的カムリ語研究が進み、カムリ語正書法の混乱に終止符が打たれることになる。彼らの正書法の考え方は、前述したように、モルガン訳聖書が伝える格調高い文章語発音を表す綴りとするのであった。それは、出来る限りモルガン訳聖書で使用されている綴りを踏襲することであった。変更がある場合には、不要な重ね字の廃止などの微調整に留めた。採用した綴り字が中期カムリ語より伝わる発音を表すことを示す根拠も提示した。例えば前述の pen の複数形では pennau を採用するのであるが、それは他のケルト諸語での形を比較すると、pen の元の単数形は penn であることが背景にある（ブルトン語 penn；コーンウォール語 pedn；アイルランド語 cenn）。単数形の場合には pen と綴るが、複数形の場合には元来の二重子音を反映させ pennau と綴るべき、と考えたのである。

モリス・ジョーンズらの著した『正書法』により、現代カムリ語の書き言葉は、モルガン訳聖書の中で使用されているものと大きく異なるものとなつた。つまり、現代カムリ語を読むことが出来れば、16世紀以降の文献も難なく読むことができるということである。『正書法』はカムリ語の書き言葉に継続性を与えた大きな要因であると言えよう。

Bwrdd gwybodau Celtaidd Prifysgol Cymru（ウェールズ大学ケルト研究会）

(1928) *Orgraffyr Iaith Gymraeg*. Cardiff: University of Wales Press.

Davies, Janet (1999) *A Pocket Guide: The Welsh Language*. Cardiff: University of Wales Press.

Price, Granville. (1984) 'Welsh as a Literary, Standard, and Official Language'. In Ball & Jones, pp. 262-269.

Pughe, W. Owen. (1832) *A Dictionary of the Welsh Language, explained in English, with numerous illustrations from the literary remains and from the living speech of the Cymry*. 2nd ed. Denbigh: Thomas Gee

Stephens, Meic. 1998. *The New Companion to the Literature of Wales*. Cardiff: University of Wales Press.

Watkins, T Arwyn. (1961) *Ieithyddiaeth : agweddau ar astudio iaith*. Cardiff: University of Wales Press.

小池剛史「カムリ語の正書法 —John Morris-Jones の功績—」

Y Beibl Cysegr-lân sef Yr Hen Destament a'r Newydd. London: Cymdeithas
Y Beibl. 1992.